

2019 年度 ヒグマ活動期の運用結果について（詳細）

1. 結果概要

- 期間中の立入申請組数は 1,878 組（前年比 100%）、認定者数は 16,080 名（前年比 106%）で過去最高数を記録。
- ツアー中のヒグマ遭遇件数は 186 件（前年比 208%）で過去最多、遭遇によるツアー中止件数は 25 件（前年同値）となった。
- 月別のヒグマ遭遇状況では、昨年同様 6 月と 7 月の遭遇件数が増加傾向となっている。

2. ツアー実績等

- ツアー催行回数は平年並みだが、ツアー全体参加者数は大幅に増加。1 ツアーあたりの参加者数が増加している傾向が見られた。
- 昨年に引き続き、小ループツアー参加者数の大幅な増加が見られた。小ループツアーの認知度とニーズが高まってきている印象。
- 大ループ・小ループツアーともに、6 月のツアー参加者数が安定的に増加しており、ツアー全体参加者数を押し上げている。

1) ツアー参加状況

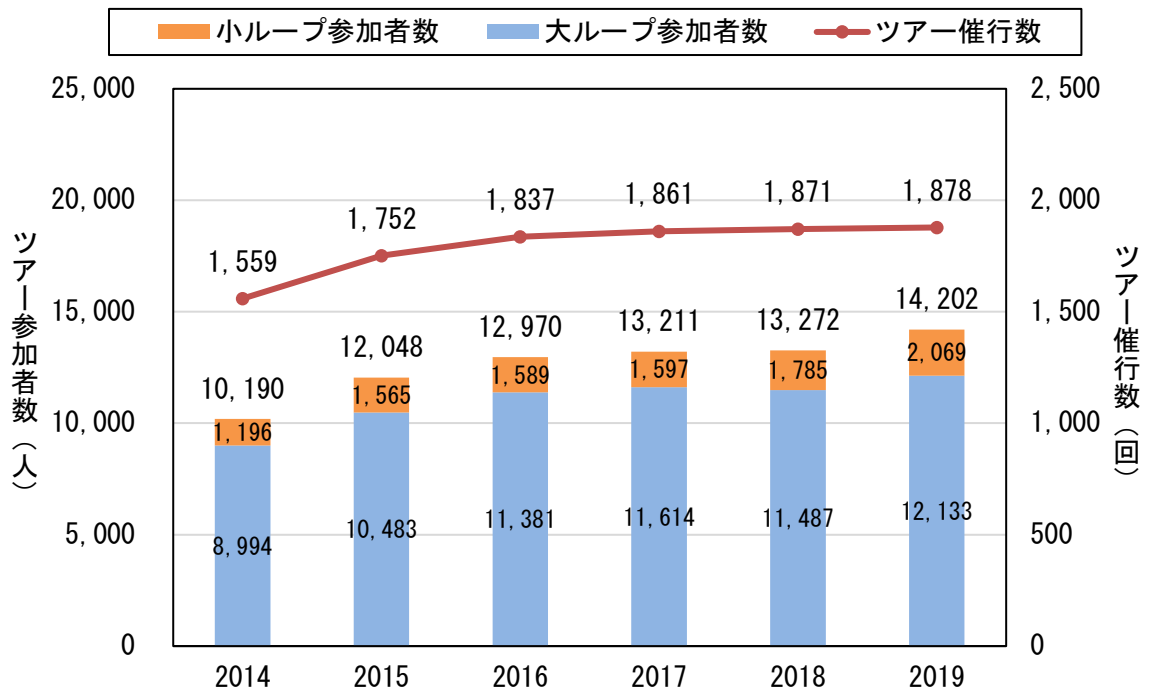


図 1. ツアー催行数とツアー参加者数

- ツアー催行数は概ね平年並みであり、ツアー参加者総数（大・小ループ合算）は昨年より約 1,000 人多かったことから、ツアーあたりの参加者数が多かった傾向が見られる。
- 大ループツアー参加者数は 12,133 人（前年比 106%）で過去最高数を記録。2014 年の約 1.35 倍の水準まで増加した。
- 小ループツアー参加者数は 2,069 人（前年比 116%）で過去最高数を記録。また、大幅な増加のあった昨年の参加者数を大きく上回る数値となった

2) 月別のツアー参加状況

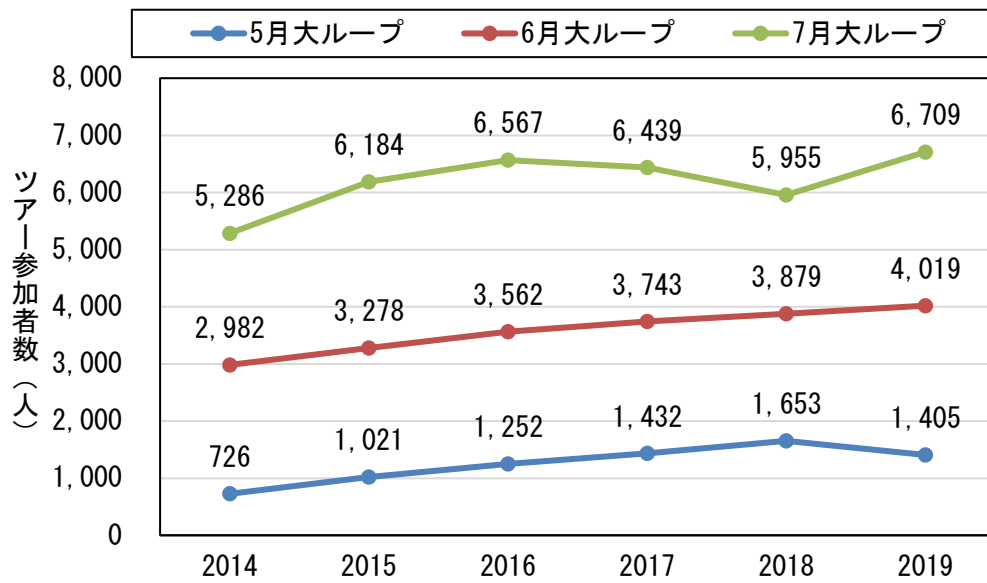


図 2. 月別の大ループツアー参加者数

- 月別の大ループツアー参加者数については、5月減少、6・7月増加となり、通期の大ループツアー参加者数が増加した。

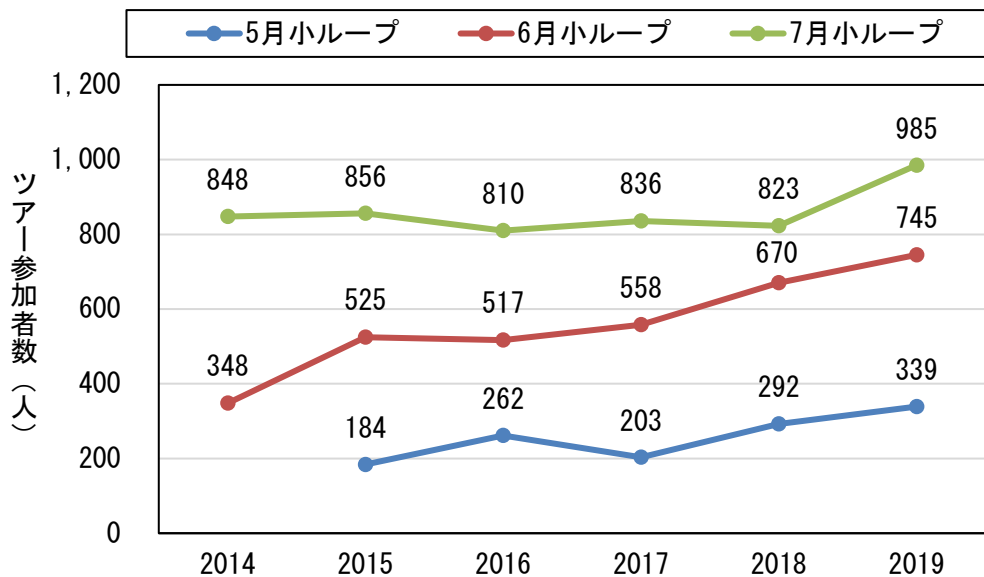


図 3. 月別の小ループツアー参加者数

- 月別の小ループツアー参加者数については、5～7月全ての月で増加した。また、6月の参加者数増加が目立っており、事業開始当時の約2倍の水準まで参加者数が増加した。

3) 外国人利用者のツアー参加状況

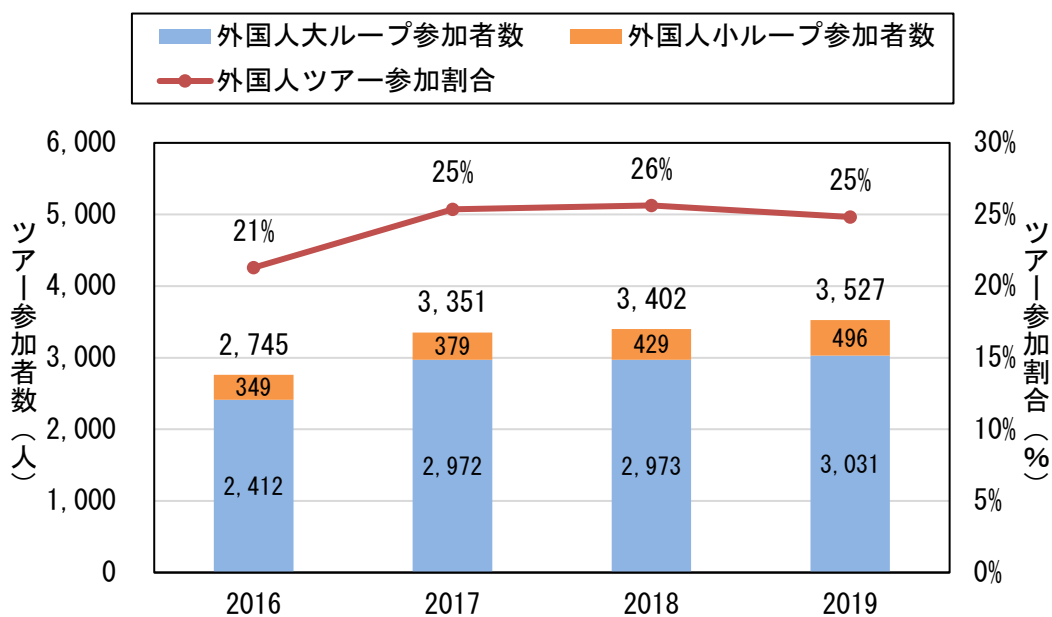


図 4. 外国人ツアー参加者数と参加割合

- 外国人のツアー参加者数は 3,527 人（前年比 104%）で過去最高数を記録し、緩やかではあるが年々増加の傾向。
- 大ループ・小ループツアーともに外国人のツアー参加者数が微増しており、特に小ループツアー参加者数の伸び率が大ループを上回っている。
- ツアー全体の参加者数における外国人の参加割合については、2017 年以降大きな変動はなく全体の約 1/4 にあたる 25%で推移している。

3. 事案等

ツアー運用関連

- ✓ 無線機のトラブルあり。引率者無線機（子機）間では交信可能だが、本部無線との交信が不通となる事象が発生。当該機器を調べたが、異常は見られなかった。以降、同様のトラブルは発生せず。（6/6）

ヒグマ関連

- ✓ ヒグマとの遭遇事例が連日発生。関連してツアー中止事例も数件あり。（7/10～7/14）
- ✓ 高架木道付近でヒグマの目撃が多発。同日中に 4 組 5 頭周辺にいた可能性あり。（7/26）

傷病事例

- ✓ ツアー中の軽微なトラブル事案（傷病事例）が 2 件発生。（5/19、5/23）
- ✓ パークサービスセンター前にて心肺停止の傷病者発生。救命処置により回復。（7/1）

4. 運用上の課題等

ツアー中の情報共有・情報整理の改善

- ✓ ヒグマとの連続遭遇等により、引率者とツアー本部の間で無線交信による情報共有が頻繁に行われることが度々発生した。そのような状況において危急性の高い事案が発生した際には、早急な無線交信を行えない可能性がある。
- ✓ 上記に伴い、ツアー本部が引率者より得た情報の整理が的確に行えていない状況が散見された。他ツアーへの情報共有や出発を控えた引率者への情報提供を正確に行うため、情報整理にも工夫が求められる。

事務負担の軽減

- ✓ ヒグマの目撃件数の増加に伴い、ヒグマに関する情報の蓄積や関係者間での共有や連絡調整に係る事務負担が著しく増大しており、これらの事務作業の継続が困難な状況にある。実施体制や作業内容の見直しが必要。

ヒグマ関連

- ✓ ヒグマ活動期以外では、8 月以降も続いたヒグマの活動状況や、10 月に発生したヒグマとの危険遭遇事例による地上遊歩道の長期閉鎖が発生した。